

-----

イルカパークの再生を請け負ってから4年。もうすぐ丸5年が経とうとしています。これまでに7頭のイルカが僕の目の前で死んでいきました。そのほとんどが肝臓疾患。もう死ぬことに慣れてしまって、涙も出ません。飼育エリアを変え、アメリカに連れて行き、獣医を変え、自分の考えを押し込め込み、なんとか救おうとしても一人も助けることができませんでした。ご存知の通り、まだ「なぜ肝臓が悪くなるのか」わかっていません。海洋環境のせいであってほしい、と心のどこかで思いつつ、ほぼ違うと言うこともうっすらわかります。

結局、この状況では当然イルカパークを存続することは叶わず、イルカを買うことになりました。自分が一番嫌いな「死んだら買えばいい」をやることになります。この数ヶ月、何度もこの仕事を辞めようと思いましたが、でも、その前にトレーナー達が自ら去りました。そのおかげで、大事なことに気がつきました。もし僕がここで諦めたら、たぶんこの施設はこれまで通り、ずっとイルカを消耗品として扱う施設になるでしょう。そして、今後誰もこの飼育のあり方に向き合わないと思ったので、自分のポリシーを完全に捨て、前言を覆し、クソかっこ悪いけど、再度挑戦することにしました。(社内スタッフに向けた手紙より)

-----

応援いただいているみなさんへ

僕はこの「死んだら買う」のループを抜けたくて、ここまで頑張ってきました。獣医師とも度々喧嘩し、トレーナーたちとも衝突をしてきました。しかし、イルカを守ることができませんでした。そして、壱岐市はイルカパーク存続のために新規イルカの購入を決定し、新しいイルカが和歌山県から運ばれて来ることになりました。

まだ葛藤はあります(きっとこれは消えません...)。僕が指定管理を拒否することはできます。でも、そうしたところで結局誰かがやってきて、施設は復活して「イルカを消費する形」に戻ります。それこそ「死んだら買う」のループを継続する選択だと思いました。ここで僕が諦めたら本当に終わってしまうだろうと。業界や保護団体から白い眼を向けられても、身を切りながら「内側から」問題提起を続けられない限り、この流れは止められないと思い、新しいイルカを受け入れてチャレンジを継続する決意をしました。どこかでイルカを守るために立ち上がる人間が必要だと思います。そして、現在立場的にも役割的にも、この業界にそんなことを言って挑戦できるのは、他業種からたまたま関わることになった大バカ者の僕くらいしかいないんです。

僕は盛大に前言を覆し、皆さんの期待を裏切ります。

本当に悔しいし、自分でも最低だと思っています。でも僕しかいないとも思います。

だから、絶対に成果を出さないとダメだと思っています。僕のゴールは「飼育されている子たちを幸せにし、いずれイルカを捕らなくてよい世界にすること」だと思っています。相変わらず何年かかるかわかりません。そして、数年で全部を失うかもしれません。そこで心が折れることもあるかもしれません。でも！いま、ここで、僕がやらないといけないんです。

今回の購入は、本当の意味の変革と新たなチャレンジと位置付けて、スタッフを一新し、これまで以上にコミュニケーションをとりながら、皆で進んでいく決意です。全く新しいチームで、まさに

DRCの飼育方法に「自然」の意識を取り込んだやり方で進めていきます。野生の動物を管理するのではなく、なるべく自然に、イルカの持つ力で自然の流れに合わせて「生きて」もらう。そんなやり方をイメージしています。

もうすぐ新しいイルカたちがやってきます。僕は「大嘘つき」になります。でも最終的に目指す世界は変わりません。最後には必ず、日本の飼育のあり方を変えてみせます。この壱岐イルカパーク&リゾートを絶対に絶対に日本一素敵な場所にしていきます。

高田佳岳